

令和元年度地方創生推進交付金 事業実施報告

1 地方創生推進交付金交付金の目的

地方公共団体が、地方版総合戦略に位置付けられ、地域再生法に基づく地域再生計画に記載された自主的・主体的で先導的な事業の実施に充てるため、国が地方公共団体に対して交付金を交付することにより、地方公共団体による、それぞれの地域に実情に応じたまち・ひと・しごと創生に資する事業の効率的かつ効果的な実施を図ることを目的とする。

2 対象事業

地方公共団体において、それぞれの地方版総合戦略に位置づけられた（又は位置づけられる予定である）事業であって、観光の振興、農林水産業の振興その他の産業の振興に資する事業。

3 事業の概要

(1) 事業名

男鹿版 DMO を核とした地域ブランドづくり推進事業

(2) 担当部課

観光文化スポーツ部 観光課

(3) 実施期間

平成31年4月～令和2年3月

(4) 事業費（実績額）

31,850,391円

（うち地方創生推進交付金 15,465,195円）

(5) 全体事業の概要

行政及びDMO法人である男鹿市観光協会、加えて市内の多様な事業者が参画する「男鹿市観光推進機構」における観光振興に関する方針や男鹿の将来像の共有により、各産業が連携した地域素材の磨き上げと商品化、継続的なマーケティング調査、一元的な情報発信・プロモーション、受入環境を整備し地域ブランドづくりを推進し、「稼ぐ（稼げる）地域づくり」を目指すものである。

DMOにおいては、ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」や続日本100名城に選定された「脇本城跡」などを代表とする「文化」、豊富な自然・アクティビティ・海山の食材を活用し「自然体験」を題材とした旅行商品の造成と売込を国内外において実施することにより、誘客及び消費拡大を図る。

また、国内需要の受け止め、拡大する外国人旅行需要に対応すべく、HPの多言語化や情報共有・発信のプラットフォームの整備を進めるとともに、外部専門家を招聘して事業者・住民向け研修会を実施し地域機運の醸成を図る。

実施に際しては、民間企業から専門人材の派遣を受け各事業の進捗管理、販路拡大のほかモニターツアーの実施などにより地域産業の連携、資源の価値を高め、加えて各種ノウハウの提供により地域の人材育成も図ることにより、目指す将来像を実現する。

(6) 事業内容（令和元年度分）

<男鹿市執行分>

▼スポーツツーリズム【実績額：926,800円／計画額：927,000円】

○サイクリングコースマップ作成

○サイクリングイベント補助金

(1) 男鹿半島なまはげライド補助金

(2) 秋のなべっこライド補助金

▼なまはげ文化ツーリズム【実績額：2,517,120円／計画額：5,215,000円】

○歴史文化遺産を活用した地域づくり推進事業

(1) 教育旅行誘致促進業務委託等

(2) 歴史文化遺産周知活用推進

▼インバウンド誘客促進【実績額：1,487,230円／計画額：3,800,000円】

○台湾・タイ・マレーシア誘客促進トップセールス旅費

○外国人観光誘客促進補助金

<DMO 執行分>

▼スポーツツーリズム（ソフト）【実績額：7,506,605円／計画額：7,500,000円】

○アウトドアスポーツツーリズムのブラッシュアップと商品造成

○e-Bike を活用したレンタサイクル事業と商品造成

▼スポーツツーリズム（ハード）【実績額：1,499,241円／計画額：1,500,000円】

○e-Bike・クロスバイク等備品購入費

▼なまはげ文化ツーリズム【実績額：1,903,485円／計画額：1,130,000円】

○歴史文化ツーリズムのブラッシュアップと商品造成

▼インバウンド誘客促進【実績額：1,464,149円／計画額：1,350,000円】

○インバウンド誘客促進の強化

▼共通事項【実績額：14,545,761円／計画額：14,520,000円】

4 重要業績評価指標及び実績（上段：KPI、下段：実績）

	項目	事業 開始前	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
			H30	R1	R2	R3	R4
1	男鹿版 DMO における旅行商品等 売上収入額（千円）	2,433	2,933 (500)	3,433 (500)	4,433 (1,000)	5,933 (1,500)	7,933 (2,000)
			3,364 (931)	4,488 (1,124)	—	—	—
2	男鹿版 DMO が造成する旅行プラン延参加者数 (人)	0	300 (300)	600 (300)	1,100 (500)	1,800 (700)	2,800 (1,000)
			405 (405)	813 (408)	—	—	—
3	文化・自然を題材とした体験プラン商品造成数 (個)	0	3 (3)	6 (3)	11 (5)	18 (7)	25 (7)
			4 (4)	7 (3)	—	—	—
4	男鹿版 DMO が造成する旅行プランによる市内延宿泊者数（人）	0	100 (100)	200 (100)	350 (150)	550 (200)	850 (300)
			144 (144)	445 (301)	—	—	—

5 事業経費の内訳

	事業内容	実績額 (計画額)	経費内訳
男鹿市執行分	▼スポーツツーリズム	926,800 (927,000)	○サイクリングコースマップ作成 226,800 ○サイクリングイベント補助金 700,000 (1)男鹿半島ナマハゲライド補助金 (500,000) (2)秋のなべっこライド補助金 (200,000)
	▼なまはげ文化ツーリズム	2,517,120 (5,215,000)	○歴史文化遺産を活用した地域づくり推進事業 2,517,120 (1)教育旅行誘致促進業務委託等 (418,680) (2)歴史文化遺産周知活用推進 (2,098,440)
	▼インバウンド	1,487,230 (3,800,000)	○台湾トップセールス旅費 1,049,480 ○外国人観光誘客促進補助金 437,750
男鹿版DMO執行分	▼スポーツツーリズム (ハード)	1,499,241 (1,500,000)	○e-Bike・クロスバイク等備品購入費 1,499,241
	▼スポーツツーリズム (ソフト)	7,506,605 (7,500,000)	○アウトドアスポーツツーリズムのブラッシュアップと商品造成 6,512,610 ○e-Bikeを活用したレンタサイクル事業と商品造成 993,995
	▼なまはげ文化ツーリズム	1,903,485 (1,130,000)	○歴史文化遺産ツーリズムのブラッシュアップと商品造成 1,903,485
	▼インバウンド向け誘客	1,464,149 (1,350,000)	○インバウンド誘客促進の強化 1,464,149
	▼共通事項	14,545,761 (14,520,000)	○専門職員の雇用 10,262,899 ○マーケティング 2,504,480 ○モニターツアー 1,462,936 ○国内誘客の促進 259,288 ○地域気運の醸成 56,158
	総事業費(実績) 交付金計画事業費	31,850,391 (35,942,000)	
	交付金対象経費総額(実績) 交付金額の確定額	30,930,391 15,465,195	

6 事業の効果

(1) 事業の効果

地方創生に非常に効果があった(現在進行形)。

(2) 事業効果の説明

男鹿市とDMO候補法人である市観光協会が進める事業であるが、2018年度の男鹿のナマハゲのユネスコ無形文化遺産登録及び北前船の日本遺産登録などにより、観光客の入込が増加したことをふまえて、受入れ体制強化やツアー造成に一定の効果をあげられた。

スポーツツーリズムの推進では、国定公園として、日本ジオパークとして、景観の良さが売

りの当地域において、スポーツツーリズムの推進と同時に、車窓以外からの景観を楽しむ手法の一つとして、e-Bike（電動アシスト付き自転車）を核としたレンタサイクル事業を男鹿駅周辺で立ち上げた（2019年4月から運用中）。サイクリングに関連して、男鹿市事業にてサイクリングマップの作成やサイクリングイベントを開催しており、好評に期している。同時にDMOで実施する質の高い手ぶらキャンプの推進や、市内のアウトドア体験プログラムを集約し、オンライン予約や決済ができるよう、利便性を向上させている。

ナマハゲ文化ツーリズムの推進では、ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」については、男鹿市としてナマハゲを核とした伝統文化等の体験を周知することで、北海道を中心とした教育旅行の誘致を進めており、さらに文化財部局においては、パンフレットの作成や行事を正しく伝えるための取り組みを行っている。これらと連動させながら、長年の課題であった大みそかの行事見学受入れを実現させ、プレミアム商品の造成にいたった。非常に好評であり、観光ではない行事に参加できるとともに、地域の方とのふれあいを含めてツアーの評価は高かった。さらには冬季の宿泊需要を高めるために、なまはげ太鼓を活用したイベントのブラッシュアップを図り、着地型旅行商品造成を実施した。

また、近年注目度が高いにも関わらず、受入れ体制に不安の大きかった雲昌寺のあじさいにおいても、DMOを中心に体制整備に協力し、2019年の期間中で50,000人を超える有料観覧者の受入れに成功した。

インバウンドの推進においては、台湾を核としたプロモーション展開を図り、秋田県と協働して実施するトップセールスだけでなく、独自のルートで台湾サイクリング協会とのコネクションを活用して、サイクリングによるプロモーションを行っている。一定の効果は出ているものの、秋田空港に就航する予定であったチャーター便の一時休止や停止の影響が大きい。

7 今後の方針

(1) 今後の方針

事業の継続（地方創生交付金は平成34年度まで事業採択を受けている）

(2) 今後の方針の理由

市と観光協会、観光事業者全体で今後の男鹿半島の観光振興のあり方を考えていく必要があり、DMOによる事業も成果が出つつある（平成30年度の本事業は地方創生推進交付金の活用事例集にも採択され公表されている。「まち・ひと・しごと創生本部、地方創生関係交付金の活用事例集」）。本事業の効果もあり、観光客数も増加傾向であるが、一過性のものにせず、定着させていくことが必須である。着地型旅行商品の造成や各種事業を通して、DMOだけでなく地域が稼ぐ仕組みづくりを行うとともに、地域全体で観光振興に取り組んでいくことが求められており、事業の継続が望まれているため。